

ご あ い さ つ



「備えあれば憂いなし」。改めて説明の必要がないほど広く使われる言葉ですが、同時に私は「憂いなくして備えなし」でもあると思います。

人々の心に「憂い」として刻まれている災害の痛ましい記憶を風化させないこと。その「憂い」を使命感や行動の共有へ高めていくこと。そしてその輪を広げていくこと。そうした取組の積み重ねが、未来への「備え」を万全にし、安心安全な社会づくりの礎になると確信しています。

京都では、消防団や自主防災会をはじめ各地域の皆様が、「自分たちのまちは自分たちで守る」という崇高な自治の伝統を受け継ぎ、優れた「地域力」「人間力」を発揮されています。皆様の地道な御活動があるからこそ、世界に誇る京都の文化財や147万人の市民の暮らしは守られているのだと、誠に心強く感じております。

本市では、そうした皆様と連携を強め、京都のあらゆる力を結集し、市民ぐるみでまちの防災力を高める取組に力を注いでいます。震災後は、多くの事業所や関係団体の皆様と災害時における協力についての協定を結びました。また、市民、学識経験者、関係機関の皆様と共に防災対策の総点検を行い、現在、具体的な取組を実施可能なものから進めているところです。

今後も皆様と知恵と力を合わせて、災害に強く、誰もが安心して住み続けられる、世界一安心安全なまちづくりを全力で進めてまいります。引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

京都市長 門川 大作

ご あ い さ つ



昨年は、未曾有の被害をもたらした東日本大震災や、それに伴う原子力発電所の事故をはじめ、台風12号では、奈良県、和歌山県に土砂災害による甚大な被害が生じるなど、大規模な災害が日本国内に大きな爪痕を残しました。

京都市内では、甚大な被害を及ぼす災害はなかったものの、火災件数は一昨年を45件上回る215件を数え、救急件数についても、過去最多の77,137件となり、今年に入ってから増加傾向を示しております。

一方、今年度から、「はばたけ未来へ！^{みやこ}京プラン」の実施計画がスタートしています。

この実施計画は、財政状況がひっ迫する中、基本計画に掲げる「京都の未来像」の実現に向けて、将来を見通して積極果敢に挑戦すべきもの、時代の変化に応じて柔軟に改めていくべきものをしっかりと見定め、市民の皆様のニーズに的確に応えるべく、本市が進める具体的な取組を示すものです。

消防行政の根幹となる「火災予防」「消防活動」「救急」「地域防災」という4つの施策について、消防行政が置かれている現状、そして未来への展望をしっかりと見据えたうえで、「今、何をすべきか」という視点に立ち、消防職員・消防団員が、市民の皆様とのパートナーシップをより一層強め、地域の皆様と共に防火防災に取り組む「地域密着型の消防」と、あらゆる災害現場に的確、果敢に立ち向かう「力強い消防」により、誰もが「災害に強く安心して住み続けられる『安心都市・京都』」を実感することができるよう、全力で取り組んでまいります。

今後とも、皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

京都市消防局長 長谷川 純